

屋内・屋外用人感センサ共通

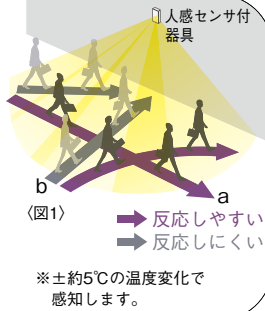
センサに関する豆知識

感知エリアはセードの形状、気温、移動速度、進入方向、人の服装などにより変化します。あくまで目安としてご参照ください。

センサ感知について

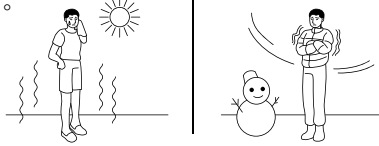
1

人感センサ(熱感知センサ)は温度変化を感知することで作動します。図1のaのようにセンサを横切るような動きの場合は温度変化の感知がしやすく、bのようにセンサにまっすぐに向かっていくような動きの場合は温度変化の感知がしにくくなり、作動しない場合があります。



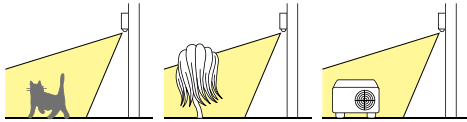
気温と人の体温との差がなくなる夏場や、防寒着等で体温が遮断されやすい冬場などの時期は感知しにくくなる場合があります。

2



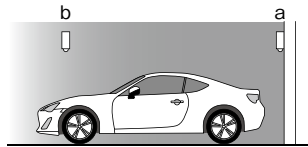
直射日光の急激な差し込み、動物、風で揺れる植木、エアコンの室外機の風や換気扇等の排気口からの吹き出しにも感知する場合があります。

3



最近増加しているハイブリッドカーや、電気自動車はガソリン車のように熱を発生しにくいため、センサが作動しないおそれがあります。

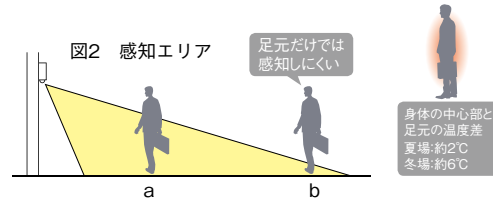
4



※設置が可能であれば、aよりbの位置がセンサ感知しやすくなります。

図2のように人の足元bが感知エリアに入っただけでは感知しない場合があります。aのように人の身体全体が感知エリアに入ると感知します。

5



※身体の中心部と足元の温度差は夏場で約2℃、冬場で約6℃あります。

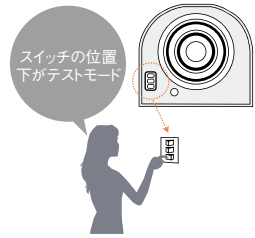
※照明計画の際は上記のようなことに考慮いただき、ご提案ください。

テストモードについて

6

多くのセンサ付器具には「テストモード」スイッチが付いています。「テストモード」の状態にしておくと正しく動作しませんのでご注意ください。

※動作設定スイッチを「テスト」にし、照度設定スイッチを「切」にする
と日中でもセンサの動作や感知エリアの確認ができます。ただし、「テストモード」のままにしておくと正しく動作しませんので、くれぐれもご注意ください。
※一部「テストモード」が付いていない機種もあります。



リセット機能について

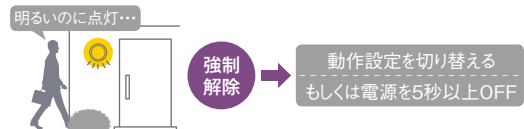
7

ごく短い停電や外来ノイズ、または誤ったスイッチ操作で連続点灯になることがあります。その場合は壁スイッチを5秒以上OFF後、ONにしてください。点灯し、約60秒後に設定したセンサ待機状態に戻ります。センサ器具はリセット操作を行うため、必ず壁スイッチを併用してください。



8

各センサのタイマーモードはいったん点灯すると、周囲の照度が明るくなくても6/8時間は点灯(弱点灯)を続けます。強制解除をするには、動作設定スイッチを切り替えるか、電源を5秒以上OFFにしてください。また、夏場や冬場など日照時間により、センサ作動の開始時間が異なります。



9

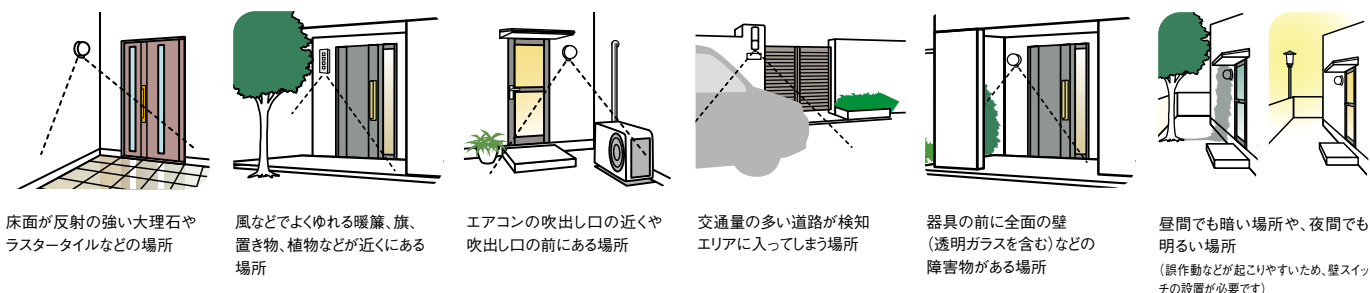
トイレ用センサ器具をご使用の際は、壁スイッチを常にONにしておいてください。誤ってON-OFFの動作をした場合、初期設定モード(テストモード)に戻るため、約35秒で消灯します。その際は、手をかざす等の動作をしていただくことで継続点灯いたします。



屋外用人感センサ

センサに関する豆知識

人感センサ付器具の取り付けに適さない場所があります



照明計画・器具設置の際のポイント

動線を考慮した配灯位置

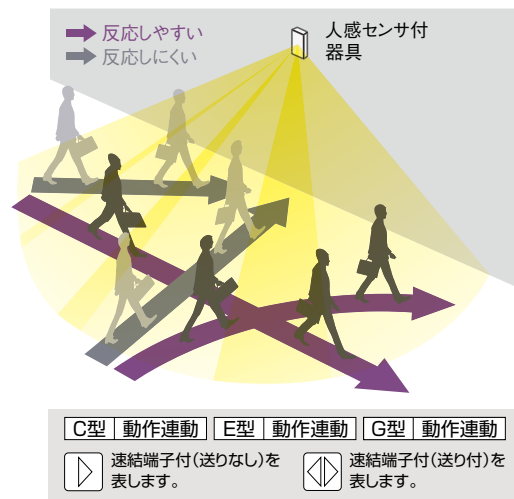
人が感知範囲を通る際、感知しやすい方向としにくい方向があります。動線を考慮し、人がセンサを横切るように配灯すれば、感知しやすくなります。

動作連動・配線について

センサ付器具には動作連動できるものとできないものがあります。スペックの表示を確認し、器具に負荷用端子がない場合は施工時の指示が必要となります。

連動負荷の容量は、スペックに記載があります。容量オーバーの場合や容量が少なすぎる場合、連動しない可能性があります。※LEDの場合、W数ではなく搭載の電源などの仕様で決まります。

また複数のセンサ付器具をひとつのスイッチでON-OFFする場合、プルレス機能の無いセンサで選定する必要があります。器具自体に送り端子がない場合は施工する際の配線で分岐する必要があります(動作連動ではなく別回路)。プルレス機能付のセンサ器具は器具ごとに1つのスイッチが必要となります。



⚠️ ご注意 人感センサ付照明器具及び自動照明センサスイッチの取り扱いについて

電源スイッチ、配線等について

- センサ付器具には、誤作動時等のリセット操作のために、必ず電源(壁)スイッチを併用してください。
- プッシュ式のON-OFFがわかりにくいスイッチは確実に操作できているか確認してください。
- 電源ON-OFF用に使用する壁スイッチに、調光器(半導体スイッチング素子)を使用した壁スイッチは使用しないでください。使用されますとセンサが破損します。また、自動減速器等も電源に使用しないでください。
- 電源ON-OFF用で、OFF時にスイッチの表示灯が点灯するスイッチ(ホテルスイッチ等)は2個まで(2ヶ所操作まで)の使用としてください。3個(3ヶ所)以上でスイッチ操作をする場合には表示機能がないスイッチを使用してください。壁スイッチでの点灯切り替え機能が働かなくなります。
- 電源ON-OFF用でON時にスイッチの表示灯が点灯するスイッチ(パイロットスイッチ等)を使用されても器具のランプが点灯している時はスイッチのパイロットランプは点灯しません。
- センサ付器具の電源配線は電話機、インターホン、音響機器等の電源線や信号線と共通化、または結束しないでください。ノイズが入る場合があります。(調光器と同様の対策を行ってください)
- 負荷または負荷配線を短絡させないでください。故障の原因になります。

設置場所について

- 本センサは赤外線(熱)の変化を感知するため、人体以外でも熱の変化があれば点灯します。また、人体でも動かなければ設定時間経過後には消灯します。従って以下のような場合はご注意願います。
- 直射日光の急激な差込みや直風、風による物体の揺れ、エアコンの室外機の風等により作動する場合があります。また、犬、猫等の小動物等でも感知する場合があります。
- 車や人通りの多い場所等は感知エリアに十分注意してください。
- 車庫等に設置する場合はヘッドライト等の強い光が入らないように設置してください。
- 本センサは照度感知もしておりますので別の器具の光により、作動しない場合があります。
- 器具から1m以内の正面に白っぽい壁が来ないように設置してください。センサが誤作動しON-OFFを繰り返す可能性があります。
- 外光があまり当たらない場所に設置されますと、周囲が明るくても動作する場合があります。
- 設置高さは2.0mで感知エリアを設定しておりますので、2.0m以上になりますと感知感度が落ちます。
- センサレンズに向かって近付いた場合は反応しにくくなりますので取付方向に注意してください。
- 振動の激しい場所への取り付けはしないでください。
- 周囲温度が高い場所には使用しないでください。
- 照明器具の光が直接センサに入る場合は、照明器具からセンサまでの距離を1m以上離してください。
- 点滅頻度が高い場所には白熱灯器具、LED器具を使用してください。蛍光灯ではランプ寿命が短くなります。

次のような場合でも故障ではありません

- 夏場など背景の温度と人体の体温との差がない場合感知しにくくなる場合があります。
- 冬場でも防寒具等で体温を遮断した場合は感知しにくくなる場合があります。
- レンズ部が汚れたり傷ついたりすると感知感度が悪くなったり設定照度が変わったりします。やわらかい布で傷つけないように拭いてください。
- 器具の近くでランシーバーや携帯電話を使用されますと勝手に点灯したり誤作動する場合があります。
- 夕方点灯する照度より、朝消灯する照度の方が明るいのは、センサが誤作動しON-OFFを繰り返すのを防止するため故障ではありません。
- 照度センサの働きで明るいときは、人が近づいても点灯しません。